

多様な森林を目指して

〜広葉樹の森林づくり〜



広葉樹の間伐・株立ちの整理を行い整備された林内の様子



皮剥は「パーカー」と言うチェーンソーの改良型機械で実施



表土の流出がある場所に現地発生材を利用して筋工を施工しました



長野県では、水源のかん養・山崩れの防止など、森林の持つさまざまな働きをより強く発揮すべき森林を「保安林」に指定し、その働きの維持・向上を図るため治山事業による「森林整備」を進めています。

今までの森林整備はカラマツ林のような針葉樹を中心に行われてきましたが、かつて、薪炭材やシイタケ原木として活用され、現在それらの利用がほとんどなく、放置されている広葉樹林では、株立ちの状態のまま大きくなった木々が混みあい、林内が非常に暗くなっています。

今後、このまま森林が放置されると地表に下草がなくなり、その結果、表土が降雨により流れ出し、森林の持つさまざまな働きが損なわれる恐れがあります。

このため、間伐を行って林内を明るくし、地表の植物の生育を回復させます。

同時に、表土の流出がある場所には、間伐によって発生した現地材を利用して、筋工（写真参照）を施工しています。

また、長野県では針葉樹と広葉樹を合わせて育成させる施策を推進し、針葉樹と広葉樹の混交林を目指した山づくりをしています。